

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 名和賢美	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>2016年度に最も力を注いだのは、昨年度に引き続き、「論理的表現力と批判的思考力を主軸とした市民教育プログラム構築に向けた調査研究」であり、関連する教育研究の成果および事業の概要は、以下の通りである。</p> <p>(1) 初等中等教育での教育研究</p> <p>① 高崎市立北部小学校6年生への作文指導 (11月29日、12月5日)</p> <p>今年で3回目。地域貢献も兼ねて校区内にある小学校6年生57名を高経大に招待。キャンパス見学で大学の雰囲気を見学したあとに、「苦手な作文の攻略法：読みやすい文章の書き方」という講義を実施。事前課題と事後課題も課し、論理的表現の基礎についての理解促進を図った。また、本年度は新たな試みとして、12月5日に講義第2弾も実施。北部小6年生教室にて、ゼミ生7名のアシスタントとともに、事後課題の振り返りをした上で発展的な内容を指導し、児童各自の論理的表現力の定着度を高めるように努めた。</p> <p>② 高崎市立高崎経済大学附属高等学校1年生への作文指導 (5月27日)</p> <p>今年で5回目。附属高1年生が高経大見学時に、「論理的な文章の書き方：言いたいことを分かりやすく伝える基本の型」という講義を大講義室にて実施。事前課題と事後課題も課し、論理的表現の基礎についての理解促進を図った。附属高のスーパー・グローバル・ハイスクール事業の一環。</p> <p>③ 高崎市立高崎経済大学附属高等学校1年生オナークラスへの「経大生による作文指導講座」の開催 (10月6日、25日、11月17日)</p> <p>ゼミ生が附属高1年オナークラス生徒に少人数制で型作文を指導するという企画であり、今年で6回目の実施。3日間にわたる大学生24名のきめ細やかな指導により、生徒74名の論理的表現力を大幅に高める一助となる。附属高のスーパー・グローバル・ハイスクール事業の一環。</p> <p>(2) 高等教育での教育研究：経済学部教養教育委員会日本語部会の部会長 (通年)</p> <p>経済学部では2014年度より1年次生の批判的思考・論理的表現の汎用力の育成を目指す導入科目として日本語リテラシー科目を新設開講したが、本科目の授業内容の検討や担当者の選定などを逐条審議する部会を定期的に主宰した。また、『担当者指導要領』の改訂版 (103頁) を作成し、前期科目40クラスの公平性維持を図った。</p> <p>(3) 日本政治学会年報2016-I号編集委員会の編集委員 (2016年6月まで)</p> <p>「政治と教育」を特集テーマとする『年報政治学』の編集委員として、編集委員会に定期的に参加してテーマへの理解を深めながら、自らの研究成果として、以下の論文を執筆した。</p> <p>「型作文と型発問から始まる市民教育プログラム構築への挑戦：論理的表現力と批判的思考力の教育相乗効果を目指して」『年報政治学2016-I 政治と教育』木鐸社、77-103頁 (2016年6月)。</p>	

## 2 その他の事項

### (1) 古代ギリシア政治思想研究に関する学会報告（10月1日）

立命館大学大阪いばらきキャンパスにて開催された日本政治学会研究大会分科会「政治思想における『アジア』問題：西洋と東洋の相互参照」において、以下の論題を報告。

「古代ギリシア人の『アジア』観と同胞意識の深化」

### (2) 政治思想学会誌『政治思想研究』公募論文の査読1編（9月上旬～10月上旬）

### (3) 経済学部佐々木茂ゼミ3年生2グループに対して「関東学生マーケティング大会」提出論文への論文構成および大会発表でのプレゼン等に関わる助言（10月～11月）

## 3 次年度以降の計画・抱負

前年度と同一テーマが、最重要課題となる。具体的には、以下の通りである。

まず、初等中等教育での教育研究では、附属高との高大連携事業を継続。小学生への指導も継続実現を目指す。また、本年度にあまり進展できなかった批判的思考力指導に関してパイロット授業の実施を模索したい。

それから、高等教育での教育研究では、部会長を継続し4年目を迎える日本語リテラシー科目の充実に努めると同時に、この4年間の教育研究成果をまとめ上げたい。